

第16回愛知まちなみ建築賞

○受賞作品一覧

賞名	作品名 <small>ふりがな</small>	所在地
愛知まちなみ建築賞大賞 (1件)	モード学園スパイラルタワーズ <small>もーどがくえんすぱいらるたわーず</small>	名古屋市中村区名駅四丁目
愛知まちなみ建築賞 (6件)	安城の家 <small>あんじょうのいえ</small>	安城市篠目町
	C Forest III + 喜多福總本家 <small>しーふおれすとすりー ぶらす きたふくそうほんけ</small>	名古屋市中区栄一丁目
	J's. viz. a:ile <small>じえいず う'いず えいる</small>	長久手町大字長湫
	長久手町青少年児童センター ・長久手町立色金保育園 <small>ながくてちようせいしやうねんじどうせんたー ・ながくてちようりついろがねほいくえん</small>	長久手町大字岩作
	碧南市藤井達吉現代美術館 <small>へきなんしふじいたつきげんだいびじゅつかん</small>	碧南市音羽町
	村井歯科 <small>むらいしか</small>	半田市岩滑中町

(五十音順)

○選考基準

- 1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。
- 2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。
- 3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。
- 4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

○推薦・応募結果

- ・募集期間 平成20年7月2日から8月22日
- ・推薦・応募件数 77件

○選考経過

- ・第1回選考委員会（平成20年9月4日）にて第一次選考を実施し、22点選考
- ・第2回選考委員会（平成20年11月26日）にて第二次選考を実施し、愛知まちなみ建築大賞1点、愛知まちなみ建築賞6点を選考

○表彰式

平成21年2月3日（火）

○選考委員（敬称略 五十音順 ◎選考委員長）

- 有賀 隆 早稲田大学理工学術院教授
- 五十嵐 太郎 東北大学准教授
- 市川 三千男 (社)愛知建築士会会長
- 岡田 憲久 名古屋造形大学教授
- 岡田 利一 (社)愛知県建築士事務所協会会長
- 小田 義彦 (社)日本建築家協会東海支部愛知地域会会長
- 勢力 常史 愛知県建設部建築担当局長
- 都築 敏 特定非営利活動法人ビジュアルコンテンツプロダクトネットワーク理事長
- ◎日色 真帆 愛知淑徳大学教授
- 伏見 清香 広島国際学院大学教授
- 山内 彩子 (有)東風意匠計画代表

第16回愛知まちなみ建築賞 総評

まちに対する構えに特徴のある作品が選ばれたように思う。構えというのは、周囲の都市的環境に対する間合いの取り方のようなもので、押すか、引くか、組むか、かわすか、どう構えるかはそれぞれの状況で探るべきものだろうが、はっきりした姿勢をもつ建築は小気味好い。

大賞に選ばれた「モード学園スパイラルタワーズ」は、見えを切っている。旋回して踊るような姿は眺める方向や角度によって異なり、どこから見ても主張の強い構えである。選考委員会では、賛否両論、盛んに議論が交わされた。超高層ビルに対して、無難な道を選ばなかった関係者の潔さと努力とが慮られ、時代の表現になっているとして評価した。

「安城の家」は、街路の一部と見紛うほど開かれている庭と、まちから守られ内側に開いた中庭という、対照的な外部空間で構成された住宅で、ゆったりした郊外の環境に対する興味深い構え方をしている。

「C Forest III + 喜多福總本家」は、広小路の繁華なまちに面する隣り合った2つの敷地に、スリットを挟んで鏡映しのように建てられた店舗ビルである。アクセントとして気が利いていて、まちを歩くのが楽しくなる。

「J's. viz. aile」は、新しく造成された住宅地と林とのエッジにあり、拡がりのある風景に置かれたように軽々と建っている。驚くほど張り出しながら威圧的に見えないのは巧みで、通り過ぎる車から見るスケールにも似合っている。

「長久手町青少年児童センター・長久手町立色金保育園」は、楕円形の2つの建物と、築山や土の広場、植栽などがつくりだす風景が、子どもたちが自由に過ごす場所にふさわしいゆるやかさを醸し出している。

「碧南市藤井達吉現代美術館」は、まちの誇りといえる伝統的景観に向き合う場所に、建物の転用によってつくられた美術館で、立地も用途も優れた選択で、極めて今日的な計画である。むずかしいデザインに取り組んでおり、後につづく各地の試みにとっても参考になることだろう。

「村井歯科」は、不整形の敷地に既存樹木も取り込みながら建て替えたもので、複雑でひだの多いオープンスペースの取り方に、場所との応答の様子がうかがえる。この場所に建築主が愛着を持ち、設計者や施工者がそれに応えていることがよくわかる。

世紀をまたいだ16年間の愛知まちなみ建築賞の歴史を振り返ると、場所の特徴の読み解き方、環境との応答の仕方、新しい提案の仕方などが豊富になり、着実に洗煉されてきたことがわかる。世の中の人々の眼は肥えてきており、より質の高い景観が期待されている。

選考委員長 日色 真帆

1. モード学園スパイラルタワーズ



撮影 スタジオムライ

建築物名称	モード学園スパイラルタワーズ
所在地	名古屋市中村区名駅四丁目
建築主	学校法人 モード学園
設計者	株式会社 日建設計
施工者	株式会社 大林組 名古屋支店

主要用途	専門学校・店舗(地下階)
構造	鉄骨造(柱 CFT)・ 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下 3 階・地上 36 階・塔屋 2 階
敷地面積(㎡)	3,540.06 ㎡
建築面積(㎡)	2,365.75 ㎡
延床面積(㎡)	48,988.96 ㎡

新しい名古屋の顔となるビルがようやく誕生した。むろん、高さでは名古屋ルーセントタワーやミッドランドスクエア、JR セントラルタワーの方が上である。だが、スパイラルタワーズは、ねじれた造形ゆえに、一般の人にもそのキャラクターがすぐに記憶される圧倒的な個性をもつ。お行儀のいいビジネス・スーツ・ビルを増やす凡庸な再開発が続く、東京にも大阪にもない。あえて言えば、日本では珍しいドバイ型のアイコン・タワーである。冒険を避ける風潮のなかで、評価されるべき野心的なプロジェクトといえよう。

スパイラルタワーズは、彫刻的な外観ゆえに、複雑な平面の処理をこなし、思い切ったエレベータのシステムを導入している。難しい施工に対しても、合理的な解決でのりきった。東海大地震を想定し、屋上制震や制振カラムも使う。日建設計のデザイン力、コンピュータ解析を用いた構造設計、そして洗練された職人の仕事が融合し、21 世紀初頭という時代性を刻み込んだランドマークは生まれたのである。

五十嵐太郎

2. 安城の家



写真提供 I.M.A.

建築物名称	安城の家	主要用途	専用住宅
所在地	安城市篠目町	構造	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造
建築主	野々田 亨、野々田 仁美	階数	地上2階
設計者	I.M.A.	敷地面積(㎡)	578.83 ㎡
施工者	株式会社 ナカシロ	建築面積(㎡)	243.90 ㎡
		延床面積(㎡)	220.33 ㎡

日本のデンマークとうたわれた安城市は、現在、アイシンAWをはじめとするトヨタ系列企業やマキタを有する、農業と工業との調和が整ったまちとなっている。その安城市内の北西部、篠目町の一区画が新興住宅地域として開発され、その最も西の端にこの家はある。

道に迷いながら車を進めたのであるが、“清風が漂う”というものが、この建物が目の前に唐突に現れたときの私の第一印象であった。文字通り、清爽であると同時に、家の回りを思うがままに優しく吹き抜ける自然の風を感じたのであった。塀をあえて置かず、道と連続する敷地内に街路樹といった趣のエゴノキを配することによって、その外庭は街と渾然たる風景となっており、建物壁面に焦げ茶の杉板を置き、概ね平屋建てであることも相まって、威圧感のない柔らかな風貌を作出している。雲を浮かべた青い大空に、優しく抱かれるような有り様がそこにはあった。

家は人の住む建物であると共に、その地域を構成する構造物であり、また、私たちがとりまく自然環境の中の人工物でもある。その全てに適し、その全てに融合することは難しい。この建物はこれらを調和させようとし、かつ、その試みは希有にも成功している、と感じた。

都築敏

3. C Forest III + 喜多福總本家



撮影 車田写真事務所

建築物名称	C Forest III + 喜多福總本家	主要用途	店舗・飲食店舗
所在地	名古屋市中区栄一丁目	構造	鉄骨造
建築主	株式会社 Belle・Chapeau Asset、 株式会社喜多福總本家	階数	地上2階
設計者	竹中工務店設計部	敷地面積(㎡)	317.51 ㎡ (2敷地合計)
施工者	竹中工務店	建築面積(㎡)	247.06 ㎡ (2敷地合計)
		延床面積(㎡)	480.94 ㎡ (2敷地合計)

街並みはそこに建つ一つ一つの建築の形やデザインによって作り出されるが、同時にそれ自体が地域の歴史や文化を映し出す空間性を持ち、人々の心にも刻まれる“場所の記憶”を伝え続けるものである。

受賞作品「C Forest III + 喜多福總本家」の建つエリアは、沿道に大型ホテルや大規模事務所ビルが建ち並ぶ広小路通りにあって、2-4階建て前後の間口の狭い小規模店舗建築が軒を並べ、歩行者スケールの街並を形成している数少ない地区の一つである。受賞作品は建築主の異なる隣り合う2軒の小規模店舗の建替えとして計画された。設計プロセスの詳細を伺い知ることは叶わないが、建築主、設計者ともに広小路通りの賑わいの連続や沿道空間の魅力がこの地区のヒューマンスケールな街並と深く関わっている事を大切に受止めたものと理解できる。提案された建築のデザインには、間口が狭く奥行きが深いいわゆる町家型の敷地の特徴を最大限に引出そうとする工夫が強く読み取れる。広小路通りに面した前面から奥へと伸びる中央の2つの階段は、2つの敷地と2棟の建物の独立性を確保しつつ角地建築のような奥行き感のある新しいファサードを作り出し、これによって囲まれた2層分の高さを持つ半屋外の吹き抜け空間は都市に開かれた“軒先”の様で、さまざまな使われ方とシーンが想像できて興味深い。この中央の吹き抜け空間のボリュームとプロポーションの決定には、意匠面での苦勞を読み取ることができる。広小路の街並に対して良い緊張感を与えている点に設計者の丁寧な観察とデザインの提案を感じる事ができる優れた作品である。

有賀隆

4. J's. viz. a:ile



撮影 (有)フォワード 阿野 太一

建築物名称	J's. viz. a:ile	主要用途	美容室
所在地	長久手町大字長湫	構造	鉄骨造
建築主	平田 理	階数	地上1階
設計者	株式会社アトリエ KUU	敷地面積(㎡)	1,624.20 ㎡
施工者	株式会社ユニホー	建築面積(㎡)	381.70 ㎡
		延床面積(㎡)	349.98 ㎡

東名高速道路名古屋ICの南に広がる猪高緑地の東隣に位置し、土地区画整理事業を終えたばかりで、周囲は建設中の建物と更地が目立つ。名古屋市東端を長久手町と日進市を南北に結ぶ街道沿いには、大学が多く立地し、今後住宅・店舗などが建設されようとしている地域である。

この街道沿いの信号交差点に面した傾斜地にあり、4mの敷地レベル差を利用して台数を確保した上下2段の駐車場からは、来館者は室内の気配を消されたまま玄関へと導かれる。滞在型美容室(豊富なメニューで心と体の美容サービスを提供する)という機能、大きく跳ねだした白いボックスカルバートのような箱、足元を固める石垣、谷に向かって白い壁面に大きく穿たれた窓といった外観は、「近未来の城」を思わせる。ダイナミックな昼の顔もさることながら、ライトアップされた夜の顔はことさら存在感がありとても印象的で、今後この地域に建設される建物への影響は非常に大きいと思われ、地域における新しい建築文化の創造に寄与するものとして高く評価される。

小田義彦

5. 長久手町青少年児童センター・長久手町立色金保育園



撮影 エスエス名古屋

建築物名称	長久手町青少年児童センター ・長久手町立色金保育園	主要用途	青少年児童センター:児童館/ 色金保育園:保育園
所在地	長久手町大字岩作	構造	鉄骨造/鉄骨造・一部 RC 造
建築主	長久手町	階数	地上 2F/地上 2F
設計者	株式会社 東畑建築事務所 名古屋事務所	敷地面積(㎡)	1,845 ㎡/3,046 ㎡
施工者	青少年児童センター: 株式会社 日東建設、 川崎設備工業株式会社 色金保育園: 松井建設株式会社 名古屋支店	建築面積(㎡)	733.40 ㎡/1,233.31 ㎡
		延床面積(㎡)	1,067.05 ㎡/1,809.31 ㎡

香流川に沿った道・遊歩道に面し、どことなく長閑で伸びやかな場所と設計者は表現しているロケーションは、まさにこの建築物に相応しいといえるだろう。計画から5年の歳月を経て、二つの施設が完成して、乳幼児から青少年の「こどもの街」ができた。

愛知まちなみ建築賞の選考基準にふさわしい場所を建設地に選定された長久手町当局に賛辞を送りたい。次に二つの施設のうち、一つは「内の広場」と「外の広場」を有機的に結び内外の連続した遊びや活動を可能にしている。またもう一つは「土の広場」と「築山」を配置して、「遊びのエリアが大きく広がる自由な空間」を提供している。

この施設は年を経るごとに、多くの子供たちに「思い出」を残し、「ふるさと」を伝える「みんなの家」になるだろう。そのような「夢」をみごとに創出した設計者に乾杯！

岡田利一

6. 碧南市藤井達吉現代美術館



撮影 篠澤建築写真事務所

建築物名称	碧南市藤井達吉現代美術館	主要用途	美術館
所在地	碧南市音羽町	構造	RC造・一部鉄骨造
建築主	碧南市	階数	地下1階・地上3階
設計者	株式会社 日本設計 中部支社	敷地面積(㎡)	1,783.06 ㎡
施工者	白竹建設株式会社	建築面積(㎡)	820.36 ㎡
		延床面積(㎡)	2,425.77 ㎡

碧南市の大浜地区は南北朝の昔から栄えた地域で、多くの社寺や九重味淋の倉庫などに西三河地方特有の黒い板塀が残り、趣のある街並みをつくり出している。この地区では細い路地の再整備などの「歩いて暮らせる街づくり」事業が進み、その一角に、碧南出身で明治の終わりから大正時代に前衛的な活動をした美術工芸家、藤井達吉の美術館がオープンした。この美術館には役割を終えた商工会議所の建物が再生、再利用されている。

通りに接して木デッキテラスとサンクンガーデンが設けられ、市民ギャラリーや創作室に直接つながる動線が設定されるなど、建築の無料開放ゾーンが日常的に親しみやすく地域に開かれている。また明るく開放的なガラスのキューブと大判のガラススクリーン、新たな黒の外装デザインは建築と町の新旧をつなぐメッセージともなっている。

昨今、景観法の成立と相まって、古い町並みの景観価値が再認識されるようになってきた。多くの歴史的資産を暮らしの中に持つ、今では数少ない地方都市であるといっている碧南市が、その資産と現在を融合させながら、未来へのベクトルを示そうとする文化核を、古い建物を使って肩を張らずに創出したことの意義は大きい。

岡田憲久

7. 村井歯科



撮影 スタジオムライ

建築物名称	村井歯科	主要用途	診療所
所在地	半田市岩滑中町	構造	木造
建築主	村井雅彦	階数	地上2階
設計者	杉浦護	敷地面積(㎡)	400.19 ㎡
施工者	株式会社 羽田建設	建築面積(㎡)	205.89 ㎡
		延床面積(㎡)	239.91 ㎡

この歯科医院は、半田市北部の岩滑にあり、「ごん狐」で有名な童話作家新美南吉ゆかりの地域の一角にある。開業以来、地域の一員として過ごしたこの地で建替えるにあたり、敷地内の緑に対する尊厳と意識を持って設計された。幹線道路に面した細長い敷地に合わせ、平面的には一見不整形な計画となっているが、既存の樹木を活かし、建物と共存できるよう最大限の配慮を行っている

さらに、道路に面して残されたクスノキが、杉板とタイルの外壁と一体となってリズムカルな外観を造り、通る人の目を楽しませてくれる。以前建物が建っていた所は、芝張りをして駐車場として使用している。また、中庭にも樹齢50年以上のクスノキが残され、医院に来た人に安らぎと活力を与えてくれる。

道行く人と訪れる人の両方に緑の恩恵を与えてくれる素晴らしい作品である。

勢力常史